

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

2019年2月号 第139号

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円 (会員は年会費に含まれています)

報告

新年会開催

2019年1月14日 午後1時より平塚YWCAホールにおいて新年会を開催しました。

先ず谷田川代表世話人の「新しい年もみんなで楽しい家族会にしましょう」という挨拶の後、手作りの温かい甘酒で乾杯。京樽の色どりも美しいお寿司弁当をいただきながらしばし歓談。デザートのうちご大福もお腹におさまった頃、ナツメロ音楽会となりました。伴奏者で有名な大庭昌子さんのアコーディオン伴奏で、懐かしい歌の数々を大きな声で次々と歌いました。「高校3年生」「銀座の恋の物語」「青い山脈」「四季のうた」などなど。大庭さんのオカリナ演奏や、イントロを聞いて題名を当てるクイズもあり、その後はビンゴゲームと脳トレゲームで会場に笑い声が溢れました。はずれなしの賞品をおみやげに、楽しい一時はあっという間に過ぎました。参加者25名、その中でご夫婦で参加された方が5組もありました。



1月サロンあゆみ

1月18日(金) ひらつか市民活動センター研修室で開催しました。参加者11名。この日は平塚保健福祉事務所主催の家族教室であゆみ会を知ったという方が来られ、その方のお困りごとについて、どう対応したらよいかみんなで話し合いました。一人の人の問題をみんなで考える、まさにサロンあゆみここにあり、のような時間でした。

これからの予定とお知らせ

◆3月定例会 家族交流会

3月12日(火) 13:30~16:00
ひらつか市民活動センターB会議室
久しぶりの家族交流会です。奮ってご参加下さい。

◆4月定例会 第14回定期総会

4月22日(月) 13:30~16:30
ひらつか市民活動センターA会議室(移転後の)
詳細は決まり次第お知らせします。

◆ひらつか市民活動センターが移転します!!

ひらつか市民活動センターは、4月1日から旧平塚警察署跡地(見附町市民センター隣り)に移転します。1階が崇善公民館、2階が市民活動センターとなります。(道路向かい側が市営駐車場)

したがって湘南あゆみ会の集会は、4月からそちらで行いますのでお間違えのないようお願いいたします。

◆2月・3月サロンあゆみ

2月15日 3月15日 13:00~16:00
場所 ひらつか市民活動センター研修室

◆4月サロンあゆみ

4月19日 10:00~12:00(4月のみ)
場所 移転後の市民活動センターC会議室

※お間違えのないようお願いいたします。

6月時点の障害者雇用率 1.22% 国、「法定 2.5%」の半分以下

（名家連ニュースより一部転記）

厚生労働省は、国の障害者雇用率は平成30年6月1日現在1.22%で、雇用した障害者は計3900人だったと発表した。国の法定雇用率は2.5%だが、中央省庁などでの長年にわたる不適切な計上が原因で4270人が不足。法定率を大きく下回る現状が浮き彫りになった。

公務員正職員採用 35道府県が「身体」障害者に限定

埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、静岡県、鳥取県、島根県、福岡県以外の39道府県で、正職員の障害者雇用枠から精神障害者を削除しています。知的障害者も38道府県で除外。行政による「直接差別」が横行しています。

都道府県別正職員の障害者雇用枠

	身体	精神	知的		身体	精神	知的
北海道	○	×	×	滋賀	○	×	×
青森	○	×	×	京都	○	×	○
岩手	○	×	×	大阪	○	×	×
宮城	○	×	×	兵庫	○	×	×
秋田	○	×	×	奈良	○	×	×
山形	○	×	×	和歌山	○	×	×
福島	○	×	×	鳥取	○	○	○
茨城	○	×	×	島根	○	○	○
栃木	○	×	×	岡山	○	×	×
群馬	○	×	×	広島	○	×	×
埼玉	○	○	×	山口	○	×	×
千葉	○	×	×	徳島	○	×	×
東京	○	○	○	香川	○	×	×
神奈川	○	○	○	愛媛	○	×	×
新潟	○	○	○	高知	○	×	×
富山	○	×	×	福岡	○	○	×
石川	○	×	×	佐賀	○	×	×
福井	○	×	×	長崎	○	×	×
山梨	○	×	×	熊本	○	×	×
長野	○	×	×	大分	○	×	×
岐阜	○	×	△	宮崎	○	×	×
静岡	○	○	×	鹿児島	○	×	×
愛知	○	×	○	沖縄	○	×	×
三重	○	×	△				

（※○枠あり ×枠なし △採用試験を不定期実施）

寄稿 「天からの贈り物」

会員 H. A.

私は現在81歳の男性で2人の息子がおります。長男は50歳、次男は48歳でまさに働き盛りの年代です。長男は結婚しておりますが、次男は不幸にして24歳の時に統合失調症を発症して、家族は大混乱に陥りましたが、現在は24年目にして大きく改善しております。服薬を中止して22か月目を迎えますが、トラブルもなく一先ず安堵しております。就労も人間関係で苦しみ乍ら入退社もありましたが、頑張る光景にやっと家族に笑いが戻り始めました。先行きは未だ不透明ですが、大きく改善したことは事実で、少々勇み足かとも思いますが、前向きに捉え、発症からのプロセスを赤裸々に書き、仲間たちに少しでも参考になればと思い、筆を取りました。

私たちのサポートには若干、意外性がありますがほぼ一般的な事です。振り返ると以下の要点が思い出されます。

- ① 医師の勧める強制入院の拒否
- ② 医師との信頼関係を密にする
- ③ 本人を家に閉じ込めない事
- ④ 家族間の意思疎通を密にする
- ⑤ 親子の信頼関係を大切にする（例として、ドライブ等を頻繁に行い、気持ちの解かれたところでコミュニケーションを増し、本人の不満、怯え等を察知して助言・サポートに活かす）
- ⑥ 服薬を拒む為本人に隠して服薬をさせる
- ⑦ 就労は一歩下がった職種レベルで就労を促す
- ⑧ 病識がない為に「健保」を利用しなかった、等々。

次男は高校の電子科を卒業後、大手複写機メーカーに入社して6年目の24歳の時に職場のリーダーに昇格するも、妬みやプレッシャーからストレスが重なり、退職にまで至りました。その頃から体調を崩し、統合失調症へと進行し、東海大学病院や北里大学病院で相談や診察を受けました。両病院とも対応が高圧的で、即、入院を勧められ、頭の中が真っ白になりました。結局、拒否する事にしました。これが将来を左右する大きな分岐点でもありました。プライドの高い息子にとっては屈辱的な事で、その後は何時までも拘り苦勞しました。強制的に入院を強いていたら現在の状況は

とても考えられません。その後、家内の知人の紹介で市内のS医院に息子を説得して受診させました。カウンセリングの結果、重度の統合失調症であると告げられました。先生曰く、「強制入院をさせると後が大変ですよ」とのコメントでした。大手病院と個人医院の見解の相異を目の当たりにしました。その後は同医院を主治医と決め、医師との信頼関係に努めました。多くの助言や配慮を戴き助かりました。先生は口癖のように、家での閉じこもりはしないようにとアドバイスされました。私達も時間の許す限り、近場の観光地に車で出かけてはコミュニケーションを増し、意思の疎通を計り、何時も味方である事を諭し、安心感を与えるように努めました。治療は外来での薬物療法で、薬は種々試み、セレネースに始まり最終的にはジプレキサが適薬と判断しました。本人が服薬を拒み、仕方なく粉末にして隠しながら服薬させました。不安定な状態乍ら就労意欲は旺盛で、発症から3~4か月を過ぎた頃から自ら職安に行き、就労先を検索するのには啞然としました。入退社を繰り返すも全て人間関係に起因しておりました。印象的だったのが、大手電機メーカーでコンピューターを操作し乍ら金属加工をする職場で、10年勤続の表彰を受けたことです。同僚との連携が少なく、独立性が高かったので居心地が良かったのでしょうか。しかし、人間関係にも捻じれがあった様で、出勤途中に引き返したり、又、自死も考えた事が有ったそうです。勤続11年目に入る頃に、部課長の説得を振り切り退社しました。時は平成20年のリーマンショックで大不況の真っ最中でした。私も本人がこれ程に苦しみ耐え抜いた事に心が痛み、病を憎み、何としても助けてやりたい一心でした。退職後、再度就職活動を始めるも検索するのは至難の業で、力尽き、仕方なく介護職に着目し応募するも無経験のため失格の連続でした。最後に選択したのが“急がば回れ”で、横浜の介護学校に入学して(狭き門)ヘルパーの資格を取得し、介護職に従事しました。平成28年には福祉士の資格を取得し頑張っております。介護職は悪条件で厳しい職種ですが、慕われ“ありがとう”の言葉に働き甲斐を感じるこの事です。

私達も高齢と成り、息子の体調も現状維持が精一杯で、将来を憂い、変化失くして未来はない事を悟り、相談窓口を模索しました。幸い辿りついたのが当あゆみ会でした。予想に反し統制の取れたしっかりした組織で、安堵と期待で胸が躍りました。役員の方々は市の職員と違って、同じ苦悩を抱える仲間の方々と知り、頭が下がりました。私の一番の目的は、息子が病を認知し、自ら服薬をする事でした。代表の方の配慮で、講演後の高森先生に個別面談をして頂きました。先生に主旨を話すと先生曰く、主治医と連携して十分に根回しをしてから服薬を中止して、幻聴、幻覚が発症して本人が苦しくなった時に、主治医の所に連れて行く、というものでした。私は躊躇しましたが、先生を信じ服薬を中止しました。7か月目に再発しましたが、薬を服ますと2日程で落ち着き、その後、再び中止を続けました。

現在22か月目を迎えますが、再発の様子は見られず、全く想定外の事で、奇跡的現象で唯々驚き狂気乱舞しております。まさに天からの贈り物です。このまま順調に進む事を祈るばかりです。何れにせよ、あゆみ会の存在は決して決して忘れる事はありません。未だ先行きは不透明ですが、難病に立ち向かい、「愛が難病に勝ろう」としていることを仲間にお知らせして筆を置きます。



新刊紹介

『マンガでわかる！障害年金』

年金理解のための決定版！

複雑な年金制度を全編マンガで解説！

監修 白石美佐子・中川洋子

日本評論社 1300円

患者さん・ご家族・支援者のための

統合失調症薬物治療ガイド

「統合失調症薬物治療ガイドライン」を

「読みやすく」「わかりやすく」

さまざまな意見を出しあって作成した

患者さんと医療者をつなぐガイドブック

発行所 じほう 1800円

月刊「みんなねっと」購読のおすすめ

全国精神保健福祉会連合会（通称みんなねっと）
発行

賛助会費（購読料含む）

個人年間 3600円

団体年間（お問い合わせください）

問い合わせ先

公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会

TEL03-6907-9211 FAX03-3987-5466

ホームページ <http://www.seishinhoken.jp>

月刊誌「みんなねっと」は小さい版ながらお役立ち情報満載です。全国家族会の国への働きかけの動き、毎月の特集、障害年金の問題、知ることは生きること（青木先生）の連載もあり、参考になることがいっぱい書かれています。是非 ご購読下さい。

家族相談のご案内

● じんかれん電話相談

毎週水曜日 午前10時～午後4時

TEL 045-821-8796

研修を積んだ家族相談員がお話を伺います。こころの病をお持ちのご家族のこと、ご自身の悩み、治療上の問題、福祉制度のことなど、お気軽にご相談ください。

● じんかれん面接相談（要予約）

面接日 毎月第3水曜日 午後1時～4時

面接場所 KIVAこだま（伊勢原市）

予約電話 045-821-8796

予約受付時間 火・木曜日 10時～16時
精神保健福祉の専門家が相談をお受けします。静かな所でゆっくり相談できます。無料

● そのほかの電話相談

○あやめ会 川崎市家族会 044-813-4555
月・金曜日 10時～16時

○みんなねっと 全国家族会 03-6907-9211
月・水・金曜日 10時～15時

○浜家連 横浜市家族会 045-474-2275
水・日曜日 10時～16時

● 神奈川県精神科救急医療情報窓口

TEL 045-261-7070

土曜・日曜・祝祭日及び年末年始

午前8時30分～翌日午前8時30分

平日 午後5時～翌日午前8時30分

平日の昼間 地域の保健福祉事務所が対応

家族会バス旅行のおしらせ

次期のバス旅行は5月8日（水）、日帰り
と決まりました。詳細は3月号でお知らせ
します。

ご期待ください。

